⑦ 文化の一大拠点「鶴見花月園」

かつて東洋一の児童遊園地といわれた「鶴見花月園」は、平岡廣高氏によって大正３年に開業しました。珍しい遊具やダンスホール、劇場があり、多いときには１日に７万人も訪れた「東洋一」と称された大遊園地で、日本を代表する文人墨客も大勢訪れ、鶴見における文化の一大拠点として発展しました。

鶴見花月園の開園

新橋の料亭「花月楼」の主人平岡廣高氏は、明治 45 年にパリ郊外の児童遊園地を訪れ、子ども本位につくられた遊園地の様子に感銘を受けました。

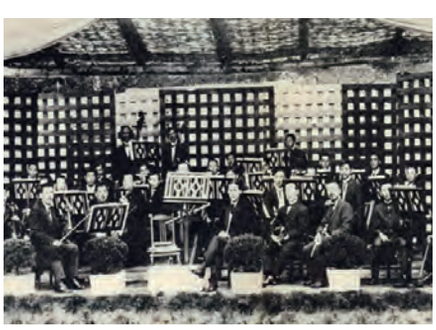
日本の子どもたちの知育と体位向上のために児童遊園地をつくりたい。そう決意した平岡廣高氏は、帰国後、江戸時代から子育て観音霊場として信仰を集めていた生見尾村大字鶴見（現在の鶴見区鶴見一丁目）の東福寺の境内を借りて大正 3 年 5 月に鶴見花月園を開園しました。メリーゴーランド、豆汽車、大山すべり、お化け屋敷、観覧車など、当時としては珍しい遊具や施設に子どもたちは目を輝かせ、鶴見花月園は子どもたちに大人気の遊園地となりました。

開園式当日は、芸者衆による華やかな手古舞が披露されました。
（写真提供：鶴見歴史の会）

文化の一大拠点として発展

遊具の他にも、様々な文化施設がつくられ、鶴見花月園は文化の一大拠点としての歴史を歩み始めます。大正３年に設置された野外劇場では、市川猿之助氏主演の野外劇が演じられ、ドイツ留学から帰国した山田耕筰氏の指揮による東京フィルハーモニー会管弦楽部の演奏会などが開かれ、質の高い芸術活動が展開されました。また、大正９年には日本で最初の本格的な営業用ダンスホールも開業され、大正 11 年に設立された花月園少女歌劇は児童文学者の鈴木三重吉氏なども参画して質の高い演劇活動を展開し、「東の宝塚」とも称されました。

豆汽車に乗る子どもたち

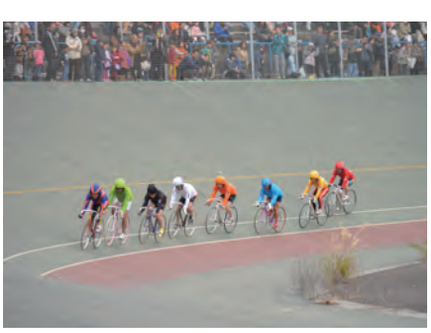


山田耕筰指揮　管弦楽野外演奏会

「東の宝塚」と称された花月園少女歌劇
（写真提供：鶴見歴史の会）

戦後の経済復興に貢献した花月園

多くの人々に親しまれた花月園は、戦時中、軍需物資の倉庫に転用されていました。戦後、子どもたちの夢を育んできた遊園地は閉園し、昭和 25 年、戦後の経済復興を目的として公営競技場「花月園競輪場」が跡地に開設されました。しかし、その競輪場も売上減少などにより平成 22 年にその幕を閉じました。現在、花月園競輪場跡地と隣接する民間企業社宅跡地では、防災公園と住宅地等の整備が一体的に進められています。



「さよなら花月園競輪場イベント」
（平成 27 年 11 月 23 日）